

[第5学年]

1 単元名

「反対意見を考えて説得力のある意見文で発信しよう」
～「自分たちにできること—大野見の未来—」～

教材名

「反対の立場をを考えて意見文を書こう」(東京書籍)

2 単元の目標と設定した言語活動

○児童観

本学級の5年生の児童は、課題に対して積極的に取り組み、自分たちで学習を進めていこうという意欲をもって学びに向かうことができる。しかし、どの教科においても自分の考えはあるにも関わらず、自分に自信がなく、発表することや書くことに対して消極的な部分が見られる。自分の意見があっても周りの友だちの意見に流されることもあり、答えは一つという先入観にとられることもある。また、書く際に「始め」「中」「終わり」の構成に分けて考えることが苦手であったり、要旨を捉えることが難しく、分かりやすく文章にまとめたり、条件に合わせて文章を書いたりすることに苦手意識がある。日常においても相手意識や目的意識を見失い、伝えたいことがうまく伝わらないといった場面が見られる。4月の「事実と考えを区別しよう」では、事実と考えを整理して文章を書く活動に取り組んだ。児童は、事実を読み取ることはできるものの自分の考えとその理由を分かりやすく書くことに時間を要する姿が見られた。

本児童が昨年度行った高知県学力定着状況調査では、[思考力、判断力、表現力等]の「B書くこと」記述式の問題において正答率が低かった。その要因として、中心に述べたいことを絞って書く力や、内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書く力に課題が見られること、また時間内に書き終えることができず、無解答率が高いことが考えられる。そのため、これらの結果も踏まえながら本単元を構成していく。

○単元観

本単元における重点指導事項は、学習指導要領における[思考力、判断力、表現力等]の「B書くこと」(1)ウ「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」の「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」に特化して指導する。本単元は、「書くこと」の「意見文」の系統として位置づけられている。児童はこれまでに、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係を踏まえて文章の構成を考えたりする学習に取り組んできた。4年の同系統の単元では、自分が伝えたいこととその理由をはっきりさせて書いたり、具体的な事例を挙げ、理由を表す言葉を使ったりすることを学習している。こうした経験を踏まえ、本単元の「言葉の力」は、「反対意見を考えて書く」と設定されている。予想される反対の立場からの意見を考えて文章を構成し、自分の意見を明確にするとともに、系統性にも留意しながら、読み手を説得するための書き表し方を工夫する力を身に付けさせたい。

○指導観

本単元では、教材文「クラスをよりよくしていくにはどうすればよいか」という話題について、説得力のある意見文を書くためには、反対の立場の人を説得できるような内容にする必要があることに気づき、自分たちで話題を取り上げ、それに対する自分の意見とそう考えた理由を意見文にまとめる活動を設定している。設定する話題は、総合的な学習の時間で探究した地域の10年後を見据え、地域の明るい未来のために自分たちにできることを発信させていきたい。その際、シンキングツールを用いているような見方や考え方に触れたり、推敲の際には、友だちや6年生との交流を通して、反対意見への理解を深めたり、より説得力のある文章となるよう工夫していきたい。単元のゴールは、下級生、学校の先生、地域の人を対象に「自分たちにできること—大野見の未来—」という話題で意見文を書いて、地域新聞や学校便りを通して学校外に発信する。また、地域参観日の際に、自分たちの呼びかけや取り組みで10年後の未来を明るくできるかもしれないチャンスと捉えて書くことで、目的意識、相手意識を持ち、意見文の作成に取り掛かれるようにする。構成を考える場面や思考支援の手立てとして ICT を効果的に活用し、シンキングツールを用いることで、単元全体を通して児童の主体性と表現力の育成を大事にして指導していく。毎時間、教科書で学習したことをもとに自分の意見文を書くという学習形態をとり、理解と表現を行き来することで学びや気づきを自分の意見文に生かせるよう学習を進めていく。また、自分の考えを広げ、よりよい意見文にするために、総合的な学習の時間に共に学んでいる6年生からアドバイスや助言をもらいたい。導入や振り返りでは、同時直接の時間を確保しながら進められるようにする。

本時では、構成メモを基にして、反対意見とそれに対する対応を考え、意見文の本論部分を書く。説得力のある文章にするため、書き表し方の工夫を確認し、それを生かして、本論部分を書くことができるようにする。その際、予想される反対意見と対応を結び付けて書くことができるようにしたい。また、共感する時の言葉など接続する語句を効果的に使い、書き表し方を工夫することで、反対意見の対応により説得力が増すことに気付かせ、自分の文章にも生かせるようにしたい。本時の振り返りでは、説得力のある本論にするために、反対意見と対応をどのように工夫したのかを振り返らせたい。

[第6学年]

1 単元名

「資料を活用して説得力のある意見文で発信しよう」
～「自分たちにできること—大野見から世界へ—」～

教材名

「世界に目を向けて意見文を書こう」(東京書籍)

2 単元の目標と設定した言語活動

○児童観

本学級の6年生の児童は、学習リーダーを中心に、自分たちで学習を進め、お互いに助け合いながら単元のゴールに向かうことができる。しかし、自分の考えを述べたり、意見を出し合ったりして学びを深めたりすることが難しい場面が見られる。間違いを恐れたり、自分の考えに自信がないことで、発表をためらったり、消極的になりがちである。書くことに対しては、抵抗がなく、自分の考えや思いを書くことはできるが、構成を考えたり条件に合わせたりして長い文章に表すことに苦手意識がある。5月の「イースター島にはなぜ森林がないのか」では、筆者の論の進め方を捉え、それに対する自分の考えを、教材文から根拠を挙げながら書く活動に取り組んだ。事実や事例、筆者の考えを関係付け、自分の考えを述べることで示されている見本にとられ、書き手の主張が弱い文章になってしまう姿も見られた。

本児童が4月に行った全国学力・学習状況調査では、[思考力、判断力、表現力等]の「B書くこと」「C読むこと」記述式の問題形式において正答率が低いことが分かった。問題文章を読んで条件を理解していないことや資料を読み取った上で自分の考えを持ち、適切な表現で述べることに課題が見られた。また学年の個人差も大きく、記述式の問題への抵抗感から無解答の児童も見られた。そのため、これらの結果も踏まえながら、集団での学びと個別の支援とを効果的に組み合わせ、本単元を構成していく。

○単元観

本単元における重点指導事項は、学習指導要領における[思考力、判断力、表現力等]の「B書くこと」(1)ウ「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」である。本単元は、「書くこと」の「意見」の系統として位置づけられ、児童はこれまでに、理由や事例を挙げて文章を書いたり、構成を考えた意見文を書いたりする活動を通して、自分の考えが明確に伝わるよう工夫して書くことを学習している。それらの経験を踏まえ、資料を用いて説得力のある文章を書く力を身に付けさせたい。そのために重要なのが[知識及び技能](2)ア「原因と結果など情報と情報との関係について理解すること」である。情報と情報との関係について捉えられるようにすることが望ましいことから本単元では、意見文を書く活動を通して、文章全体の構成や展開を考え、目的や意図に応じて事実と感想、意見の区別をし、資料を引用したり図表やグラフを用いたりして書く力を身に付けさせたい。これらを受けて、本単元の「言葉の力」は、「説得力のある意見文を書く」と設定されている。系統性にも留意しながら、情報と情報との関係を理解し、説得力のある意見文を書く力を身に付けさせたい。

○指導観

本単元では、教材文「フェアトレード問題」で、意見文を書くためにはさまざまな資料を読み取って自分の考えを深め、自分の主張を持つことが大切であることに気づき、自分たちが総合的な学習の時間に追究している「SDGs」についての自分の考えや意見を書く活動を設定している。自分の考えや意見の根拠となる資料を選択し、その資料を踏まえて構成を考えたり整えたりして書くことで、説得力のある文章となるよう工夫していきたい。単元のゴールは、保護者や地域の人へ向けた意見文を書いて、地域新聞や学校便りで「自分たちにできること—大野見から世界へ—」として発信する。また、自分たちの発信から取り組みが始まることを価値づけるためにも児童にとって身近な地域の方や保護者からフィードバックがもらえる機会を設定する。相手を地域の方や保護者に設定したのは、「SDGs」に関して自分が伝えたいことが明確に伝わり、納得してもらえたのか、すぐに反応をもらえることと、読んでくれる相手の反応を思い描き、より必要感をもって言語活動を遂行することができると思ったからである。単元を進めるにあたってはカリキュラムマネジメントの視点から総合的な学習の時間と相互に関連させ、総合的な学習の時間に調査した資料を用いて、国語科で意見文を作成する。ICT を活用したり、探究的な学びの過程の表現として位置づけたり、単元全体を通して児童の主体性と表現力の育成を大事にして指導していく。

本時では、構成メモを基に、表現を工夫しながら SDGs に関する意見文を書く。相手を納得させる書き表し方を確認し、前時の構成メモを踏まえて、選んだ資料を用いて本論を書いていく。その際、資料から分かること(事実)と自分の伝えたいこと(意見)を結び付けて書くために、自分が伝えたいことを明確にして書き進めることができるようにしたい。また、自分の考えや主張がより伝わるために論の組み立てを見直したり、書き出しや文末表現に着目したりすることで、相手に納得してもらおう書き表し方を工夫しながら書いていくことができるようにしたい。本時の振り返りでは、説得力のある文章にするために、資料から分かることと自分の意見を書くときにどんなことに気をつけたのかを振り返らせたい。

3 単元の見目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使うことができる。 【(1)オ】 ・文の中での文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。 【(1)カ】	◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 【(1)ウ】	・言葉がもつ良さを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。

3 単元の見目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使うことができる。 【(1)オ】 ・原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。 【(2)ア】	◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 【(1)ウ】 ・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 【(1)エ】	・言葉がもつ良さを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。

4 単元の見評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知①] ○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。 【(1)オ】 [知②] ○文の中での文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。 【(1)カ】	[思①] ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。【(1)ウ】	進んで、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考え、今までの学習を生かして、反対の立場を考えて意見文を書こうとしている。

4 単元の見評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知①] ○思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っている。【(1)オ】 [知②] ○原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 【(2)ア】	[思①] ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 【(1)ウ】 [思②] ○引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 【(1)エ】	進んで、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、今までの学習を生かして、世界に目を向けて意見文を書こうとしている。

5 指導と評価の計画

単元末の子どもの姿	単元末の子どもの姿
・読み手に納得してもらうために、反対意見と対応を詳しく書くことができたよ。 ・自分の伝えたいことが伝わる文章にするために文と文とのつながりに気を付けて、工夫して書けるようになったよ。 ・学級会や係活動などでみんなに納得してもらいたいときも、反論や反対意見を考えた原稿が書けそうだ。 ・自分の考えとそれに対する反対意見をじっくり予想して書くことで、相手を説得でき、自分の考えもより深まりました。	・SDGsで自分たちにできることを伝えるために資料から分かる事実と私の意見を結び付けて書いたら、相手に納得してもらえたよ。 ・総合的な時間の学習の新聞づくりでも、伝えたいところを詳しく書いて納得してもらおう。 ・双括型で文章を書いたら、自分の考えをより相手に伝えられるから、意見交換をするときなどにも使いたいね。 ・伝えたいことを伝えるために事実を挙げて、それを自分の考えと結び付けて書くと言説力が増すことが分かりました。

【第5学年】(全7時間 本時5/7)

次	学習過程	時	○学習活動	指導上の留意点	見方・考え方を働かせる子どもの姿	評価規準・評価方法
一	題材の設定 情報の収集 内容の検討	1	○単元の目的を理解し、学習の見通しを立て、話題を設定する。その話題に対して、自分の意見とその理由を整理する。	・児童の意見文を書きたい意欲を引き出すために、モデルを提示し、学習への意欲を高め、学習の見通しがもてるようにする。 ・話題に対する自分の意見とその理由を考えさせる。	・最後には「自分たちにできることー大野見の未来ー」について意見文を書いて、発信するんだね。 ・どうしたら相手に納得してもらえるような意見文が書けるのだろうか。 ・反対意見の立場の人がいることも考えると、読み手を納得させられそうだな。	
二		2	○説得力のある意見文の工夫をつかみ、話題に対して、自分の意見と理由をまとめ、反対意見を予想して対応を考える。	・反対意見を予想させて、説得力のある対応を考えさせる。 ・「意見・理由」「反対意見・対応」が読み手を説得するものになっているか考えさせる。 ・友だちの意見を参考にしてもよいことを伝える。	・自分の考えをはっきりさせて、理由を具体的に書くことが大切なんだね。 ・友だちの意見も聞くことで、自分の予想から視野を広げて考えることができたよ。 ・自分では思いつかなかったけど、そうやって書いたら反対意見へ対応できるんだね。	
	構成の検討	3	○説得力のある意見文の構成を考える。	・教材文を参考に、どのような順序で書けば、分かりやすい文章になるか構成のくふうに気付かせる。 ・構成メモを作成し、説得力のあるものになっているか考えさせる。	・山下さんの文章の構成は相手を説得する工夫がありそうだ。 ・説得力のある構成にするために、どのような順番がいいかな。 ・予想される反対意見と反対意見への対応をどのように示せばいいのだろうか。 ・反対意見と対応は、ぴったり結びついているかな。	
	考えの形成・ 記述	4	○構成メモを基に、教材文の話題に対する意見文(序論)を書く。	・教材文を参考に、読み手にとって分かりやすい文章の表現の工夫に気付かせる。 ・意見文を読み返し、友だちと交流することで説得力のある表現に気付かせる。	・理由は簡単に、その説明をくわしく書こう。そうすると伝えたいことがはっきりするね。 ・理由の「協力が大切」の部分を詳しく書いて、「仲が深まる」ことにつなげよう。 ・友だちの意見文を読むと、自分の作品にはない工夫があったよ。自分の意見文にも生かしたいな。	[知①]ICT ○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っているかの確認。 【(1)オ】 [知②]ICT・ノート ○文の中での文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解しているかの確認。 【(1)カ】
		5 本時	○反対意見と説得力のある対応を考え、説得力のある意見文(本論)を書く。	・説得力のある意見文になるよう、表現の工夫を入れるよう助言する。 ・意見文を読み返し、友だちと交流することで説得力のある文章になっているか気付かせる。	・「確かに」を使うと、読み手は次の対応を読んでみようかと思うよね。だからこの言葉を使おう。 ・納得してもらうために、反対意見への対応を詳しく書こう。 ・まずは、反対の立場の人の気持ちによりそう書き方で書こう。 ・反対の人がやってみようかと思うように、「～はどうでしょうか」と書いてみよう。	[思①]ICT ◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しているかの確認。 【(1)ウ】
	推敲	6	○表現の工夫を考え、意見文を推敲し、説得力のある意見文に仕上げる。	・説得力のある意見文について振り返り、意見文を推敲させ、自分の考えを深めさせる。	・これまで考えてきた構成メモと対応させてみよう。 ・ここの部分を詳しく書いたことは、相手に納得してもらうために効果的だったかな。	[主①]ICT 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考え、今までの学習を生かして、反対の立場を考えて意

					見文を書こうとしているかの確認。
三	共有	7	○「自分たちにできること—大野見の未来—」を読み合っ、感想や助言を伝え合い、学校便りで発信する。単元の学習を振り返る。	・意見文を交流し、学習を通して身に付いたこと、今後の学習や生活の中で生かしていきたいことについて記述できるように助言する。	・予想した反対意見について、こうしたら変わっていきそうということが詳しく書けているから納得したと言ってもらえたよ。 ・説得力のある意見文にすることで相手にしっかり伝わってよかった。

【第6学年】(全7時間 本時5/7)

次	学習過程	時	○学習活動	指導上の留意点	見方・考え方を働かせる子どもの姿	評価規準・評価方法
一	題材の設定	1	○単元の目的を理解し、学習の見通しを立て、教材文を参考に「SDGs」に対する今の自分の考えを持つ。	・児童の意見文を書きたい意欲を引き出すために、モデルを提示し、学習への意欲を高め、学習の見通しがもてるようにする。 ・単元のゴールを自分たちで設定させる。	・最後には意見文「自分たちにできること—大野見から世界へ—」を書いて、みんなに発信するんだね。 ・どうしたら、説得力のある意見文を書くことができるのだろう。 ・資料を選んで自分の考えをどのように構成すると相手を説得させることができるのかな。そのための書き方を工夫したいな。	
二	情報の収集	2	○説得力のある意見文を書くという目的や意図に応じた書き表し方の工夫を読み取り、自分の考えを持つ。	・教科書の田中さんの意見文を読み、説得力のある意見文を書くという目的や意図に応じた書き表し方の工夫に気付かせる。	・説得力を持たせるには、事実と意見は分けてメモしておいた方がいいね。 ・資料をよく読んで、読み取った内容や自分の考えを整理しておいた方がよさそうだね。	
	内容の検討	3	○自分で調べた資料から情報を分類したり関係づけたりして自分の考えを深める。	・資料から自分の知識を増やし、集めた材料を内容ごとにまとめ、自分の考えを持ち、深めることができるようにする。	・資料から見いだした情報と情報とを結びつけ、メモに分かりやすく整理したいね。 ・整理しておく、事実と感想、意見を分けて書くときに、役に立ちそうだね。	【知②】 ○原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかの確認。 【(2)ア】
	構成の検討	4	○自分の考えや主張と、資料から分かることを関係づけながら論の組み立てを考え、構成メモを書く。	・主張を考え、説得力を持たせるために資料を用いたり、構成を意識したりして論の組み立てを考えさせる。 ・友だちと構成メモを読んで感想を交流させるようにする。	・説得力のある意見文を書くために構成メモを書く、読み手によく伝わる「論の組み立て」になるな。 ・自分の考えや主張が、はっきりと読み手に伝わるような論の組み立てを考える必要があるね。	【知①】 ○思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使うことができているかの確認。 【(1)オ】
	考えの形成・記述	5 本時	○資料を効果的に活用し、説得力のある意見文(本論)を書く。	・田中さんの意見文や前時で書いた意見文を振り返り、工夫を取り入れることを確認させる。 ・資料を効果的に活用し、構成メモに基づいて意見文を書くことができるようにする。	・書き出しや文末表現を工夫すると、説得力が増すかな。 ・説得力を増すために、数値や割合などを挙げて、具体的に書こう。 ・資料の部分の本論に簡単に書いて、それについての自分の考えを続けて書いたらいいんだね。 ・「もし、～はずだ」などを使うと、自分の考えだとはっきりするね。だからこの言葉を使おう。	【思①】ICT ◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しているかの確認。 【(1)ウ】 【思②】ICT ○引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しているかの確認。 【(1)エ】
	推敲	6	○説得力のある意見文にするための表現の工夫を考え、意見文を推敲し、説得力のある意見文に仕上げる。	・説得力のある意見文について振り返り、意見文を推敲させ、自分の考えを深めさせる。	・説得力のある意見文にするために大切なことは、事実と意見を明確にし、数値を入れて具体的に書くことだね。 ・書き出しや論の組み立て、文末表現を工夫すると、説得力が増したよ。	【主①】ICT 進んで、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、これまでの学習を生かして、世界に目を向けて意見文を書こうとしているかの確認。
三	共有	7	○「自分たちにできること—大野見から世界へ—」を読み合っ、感想や意見を交流し、学校便りで発信する。単元の学習を振り返る。	・意見文を交流し、学習を通して身に付いたこと、今後の学習や生活の中で生かしていきたいことについて記述できるように助言する。	・ばくの～という意見と、この資料から分かる・・・ということを結び付けて書いていたところに納得したと言ってもらえたよ。 ・説得力のある意見文にすることで相手にしっかり伝わってよかった。	

6 本時の指導

【第5学年】

(1) 本時の目標

反対意見と説得力のある対応を考え、説得力のある意見文(本論)を書くことができる。

(2) 本時の評価規準

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。

(3) 本時の展開(5/7)

【第6学年】

(1) 本時の目標

資料を効果的に活用し、説得力のある意見文(本論)を書くことができる。

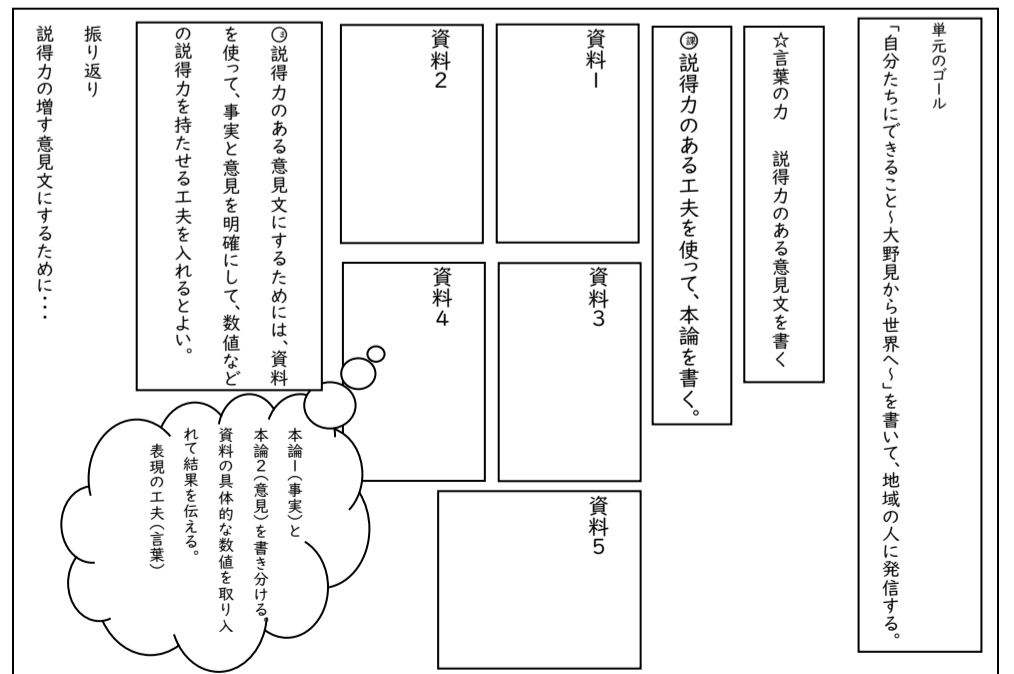
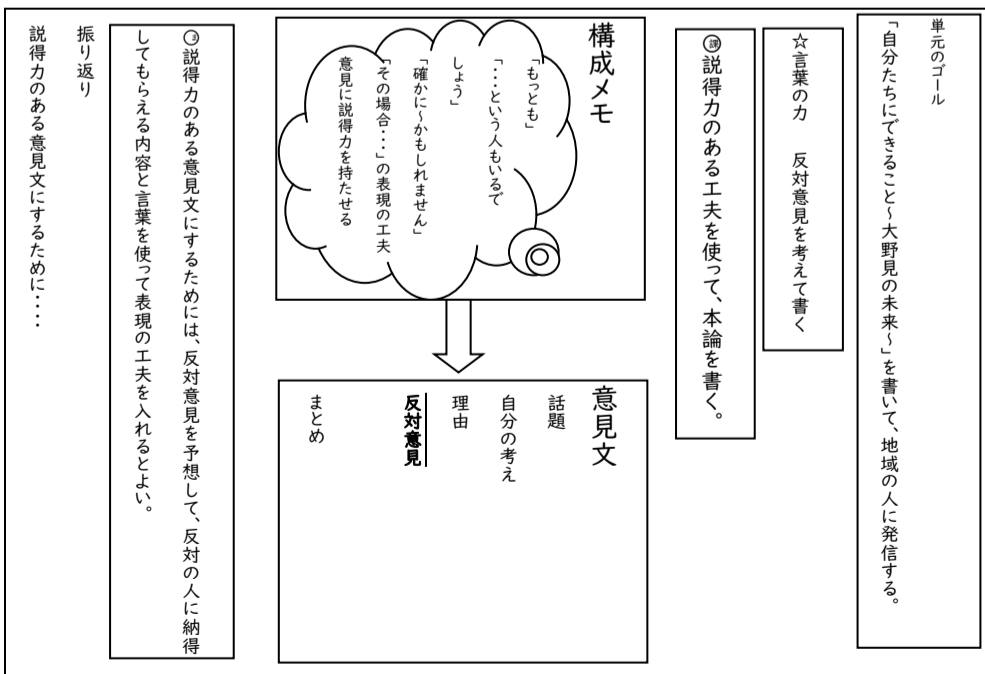
(2) 本時の評価規準

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。

(3) 本時の展開(5/7)

指導上の留意点 □評価規準(評価方法)	学習活動	■ 直接 □ 間接	学習活動	指導上の留意点 □評価規準(評価方法)
<p>・前時の振り返りから、読み手にとって分かりやすい文章の表現の工夫があることをおさえる。</p> <p>・説得力を増すためには、反対意見を考え、それに対する対応を書く必要があることをおさえ、課題へつなげる。</p> <p>思 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(Chrome book)</p> <p>・表現の工夫や反対の人に納得してもらう内容が取り入れられているか見取り、全体へ返す。</p> <p>・自分の意見文に取り入れた納得してもらう工夫は何かを考える場を設ける。</p> <p>・本時を振り返り、身に付いた力を6年生と交流することで、単元の目標に対する自分の成長を実感させる。</p>	<p>1. 教材文から「説得するための工夫」を見つけて、課題を確認する。(10分)</p> <p>⑨説得力のある工夫を使って、本論を書く。</p> <p>2. 構成メモを基に、意見文(本論)を書く。一人学び(10分)</p> <p>3. 意見文を交流し、説得力の工夫を伝え合う。とも学び(10分)</p> <p>4. 本時の学びをまとめる。(5分)</p> <p>⑩説得力のある意見文にするためには、反対意見を予想して、反対の人に納得してもらえる内容と表現の工夫を入れるとよい。</p> <p>6. 本時を振り返る。(10分)</p> <p>引き出したい振り返りの具体 説得力のある意見文にするために、構成メモを見ながら、「確かに～かもしれませんが」という言葉を使ったり、反対の人の気持ちになって考えたりして書きました。反対の人に納得してもらうために、一人一人ができることを取り組みやすいように「簡単に」や「楽しんで」という言葉を使いました。</p> <p>7. 振り返りを交流する。</p>	<p>■ ■</p> <p>■ ■</p> <p>□ □</p> <p>■ □</p> <p>□ ■</p> <p>■ □</p> <p>□ ■</p> <p>□ □</p> <p>■ ■</p>	<p>1. 教材文から「説得するための工夫」を見つけて、課題を確認する。(10分)</p> <p>⑨説得力のある工夫を使って、本論を書く。</p> <p>2. 構成メモを基に、意見文(本論)を書く。一人学び(10分)</p> <p>3. 意見文を交流し、説得力の工夫を伝え合う。とも学び(10分)</p> <p>4. 本時の学びをまとめる。(5分)</p> <p>⑩説得力のある意見文にするためには、資料を使って、事実と意見を明確にして、数値などの説得力を持たせる工夫を入れるとよい。</p> <p>6. 本時を振り返る。(10分)</p> <p>引き出したい振り返りの具体 説得力のある意見文にするために、SDGsの〇〇〇の目標について△の資料を使って事実と意見を分けて書きました。自分たちができることは難しいと考える人も多いと思ったので、△の資料の具体的な数を挙げて、「～はどうだろう」や「できるのではないだろうか」という提案の言葉を使いました。</p> <p>7. 振り返りを交流する。</p>	<p>・前時の振り返りから、数値や割合などを具体的に書く必要があることをおさえる。</p> <p>・説得力を増すためには、事実(資料などから分かる客観的な事実)と意見とを関係付けて書く必要があることをおさえ、課題へつなげる。</p> <p>思 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(Chrome book)</p> <p>・説明が不足している箇所がないかや使うとよい言葉や表現が示されているか見取り、全体へ返す。</p> <p>・自分の意見文に取り入れた説得力を増す工夫は何かを考える場を設ける。</p> <p>・本時を振り返り、身に付いた力を5年生と交流することで、単元の目標に対する自分の成長を実感させる。</p>

7 板書計画



協議の視点

児童が、育成を目指す資質・能力(本時の評価規準)へ向かうために、複式としての手立は効果的であったか。